

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4点満点 評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
心豊かに たくましく生きる 神戸の子供を 育てる	ともに育つ	ともに思いやる	心の通う挨拶と 言葉遣い	・挨拶ができる児童を目指して、学校全体で取り組んでいる。特に6年生・代表委員会を中心に毎朝元気な挨拶を続けている。 ・月目標にするなど、ふわふわ言葉を使う教科月間がある。 ・挨拶に関しては、これからは継続的な指導が必要である。	3.4	・神戸祇園小学校の伝統として、高学年のあいさつ運動は続けていく。 ・ペア学年との交流時にも挨拶・言葉遣いへの声かけをする。	・行事、授業等で祇園小学校であることに誇りを持たせる指導をお願いしたい。 ・自信、勇気、喜びをできるだけ多く感じられる小学校生活を育成してほしい。 ・放課後、公園で異年齢で遊ぶ姿を見られて、思いやる心を育んでいただいています。先生や子どもたちだけでなく、PTAも「ともに育つ」を大切に活動していきたいと思えます。 ・小さな生き物も共生の輪廻に関わっていることを学ぶ機会をもっといただけたらと思います。
			異学年の交流活動	・集会活動をなかよし班(縦割り班)で並び活動することで、異学年との交流する機会が増えた。年間を通して、ペア活動(1年と6年、2年と4年、3年と5年)を取り組むことで、高学年の自覚しながら取り組めるようになった。	3.5	・ペア活動に力を入れていく。行事・学習などを視野に入れて、年間計画をしっかりと作り、取り組んでいく。高学年は、低学年への接し方を考えることで思いやる気持ちも芽生えていくと考える。	
			相手に立場になって考える	・「ほうれんそう」に入力し、学年やクラスで起こったことを全職員で共通理解する機会を増やした。毎週金曜日の放課後、職員集合し、不登校児童についての共通理解も行った。	3.4	・来年度も引き続き取り組んでいく。 ・不登校児童への支援も学校全体で取り組めるよう、共通理解を進めていく。	
		ともにきたえる	外遊びの推進	・担任が積極的に外に出るようにした。・学年全体で長休みに声かけを行った。	3.3	・公園、体育館、運動場をそれぞれ活用することで運動量アップをめざす。	
			体力アップ	・長縄大会を実施。・新体力テスト実施後、課題見つけをした。 ・スポーツ活動は、保護者を中心になって活動した。	3.2	・スポーツ活動は、呼びかけを積極的に行う。 ・学年大会を目ざして休み時間に練習するなど、目標をもって楽しみながら取り組めるようにする。苦手な項目をどのように力をつけていくか、検証しながら進める。運動場が狭いため、他の場所をさらに有効活用する。	
			行進	・高学年が朝会などで見本を見せた。	3.1	・引き続き、指導が必要でいく。ペア学年の行進を見合う。	
		ともに学ぶ	学習タイムの充実	・低学年でも少しずつ子供自身で進めていくことができた。・時間を守って、サイレントでできつつある。	3	・来年度は、学習タイムがなくなるため、授業時間の最初の時間を使って基礎基本を身に付ける時間を設けるようにする。	
			読み聞かせ活動の推進	・地域の方が、学期に1回、各学年に読み聞かせに来ていただいた。・学校司書がいることで、図書館が充実し、子供たちの学習の場が広がり、本に親しむ時間が増えた。・国語や総合学習進度に合わせて、平行読書などを取り入れた。	3.6	・来年度も学校司書と担任が連携をとり合って、図書室の充実・図書館教育の充実を図っていく。	
			実態に即した取組	・複数指導、教科担任制、ローテーション授業などを活用して、計画的に実践を進めた。学打ち等で共通理解を行った。 ・学年で、放課後学習を行った。 ・「めあて一学び一振り返り」の流れで授業を組み立てていくよう心掛けた。	3	・複数指導は、見通しをもって計画したい。ただ、勤務時間等の問題によりなかなか話し合いの時間の確保が難しい。よりよい話し合いの検討を重ねながら、進めていきたい。・授業の流れは、学校全体で作っていく。	
			言葉の意味が分かって自分の考えをもつ(低学年)	・道徳と算数を中心に充実した研修を進めることができた。 ・グループとしては、1, 3, 5年道徳、2, 4, 6年道徳、1, 3, 5年算数、2, 4, 6年算数に分け研修を行った。 ・各学年、お互いの授業を見合うことで自主研修となり、研修が深まった。初任者研修をルーキーズ研修と名付け、2年目までの先生に声をかけ、研修を行った。	3.5	・来年度もグループに分けて研修を行っていく。教科やグループの分け方等今年度の反省を生かして検討する。 ・若い教師がまた、増えてくると予想されるので、基本的な学習規律などの共通理解も大事になってくる。しっかり共通理解していく。 ・年度当初にしっかり計画を立てて進めていく。	
安心・安全で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える	言葉の意味が分かって自分の考えをもつ(低学年)	自分の考えを素直に表現する(中学年)	・道徳と算数を中心に充実した研修を進めることができた。 ・グループとしては、1, 3, 5年道徳、2, 4, 6年道徳、1, 3, 5年算数、2, 4, 6年算数に分け研修を行った。 ・各学年、お互いの授業を見合うことで自主研修となり、研修が深まった。初任者研修をルーキーズ研修と名付け、2年目までの先生に声をかけ、研修を行った。	3.5	・来年度もグループに分けて研修を行っていく。教科やグループの分け方等今年度の反省を生かして検討する。 ・若い教師がまた、増えてくると予想されるので、基本的な学習規律などの共通理解も大事になってくる。しっかり共通理解していく。 ・年度当初にしっかり計画を立てて進めていく。	・地区の防災学習を実施している。 ・自宅前の見守りをしている。挨拶して登校できるようになってきた。 ・地域行事が少なくなってきた。難聴学級のある学校として、手話の研修を先生方がされるなど、研修もよくされていて、指導力の向上に努めておられると思う。 ・学校の雰囲気がよく、授業にも力を入れている様子をうれしく思う。 ・地域の歴史を学んだり、地域の人の話を聞くなど、地域との関わりを積極的に行っていると思う。 ・幼保との連携も行われ、来春入学児も安心して学校に通えると思う。 ・登校時だけでなく、下校時にも見守ってくださる方がおられ「地域で子供を育てる」という空気が有難い。	
		1人1人が考えをより確かなものにする(高学年)					
		学習しやすい環境づくり(特支)					
		いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)					・学期に1回ふれあいカードを実施し、早期解決に努めた。
	難聴学級児童、特別支援学級児童の理解	・4月当初、難聴についての共通理解研修を行った。学校全体で、FMシステムの使い方や話し方など確認した。 ・全校で、難聴理解教育にも取り組んだ。難聴児童が在籍していない学年でも系統的に取り組んだ。 ・定期的に手話講座を行った。 ・特別支援学級の児童の共通理解をしたり、担任と交流担任とが密に連絡を取りながら、進めていった。	3.4	・引き続き、難聴理解教育は続けていく。聞こえにくさへの支援が自然にできるようになり、ひいては特別支援を必要とする児童全員への環境への支援がせきる集団を目指していく。			
	地域学習の積極的実施	・町探検、鳥原貯水池の環境体験、自然体験、昔遊び体験、地域探検などを行うことで、たくさんの人たちの協力を得ることができた。	3.1	・引き続き、地域学習を進めていき、地域の知的財産を発掘し、継承する。			
	登下校時の見守り運動	・月1回見守りを実施している。 ・見守りカードを閲覧することで、問題や気になることを共有できた。 ・週当番が登校の様子を見守った。	3.9	・来年度、自主登校へ変更していく。その過程で、スムーズに変更できるようしっかり計画を立てていく。			
超過勤務の削減	・エコデーの徹底、毎月の超過勤務報告、勤務時間延長の申請等取り組みを進めているが、なかなか改善しない。 ・職員会資料は、できるだけ印刷せずキープに入れた。	2.9	・引き続き、しっかり意識し、取り組む。 ・業務改善委員会を積極的に活用する。				